

浜松観光ボランティアガイドの会

2年ぶりに浜松市立東小学校にて「ふるさと講座」開催



間隔をあけて整列した児童達に紙芝居形式で説明

ぼろぼろ奇跡の凧（有玉）、参加者の苦労や願い、転機（テギ）、凧、凧糸、最近の浜松まつりの事情」について、事業部メンバー8名がプロジェクターを使用して紙芝居形式で児童達に分かりやすく説明しました。

東小学校は、毎年「ふるさと講座」を開催していましたが、昨年はコロナ禍で講座が中止となり、2年ぶりの開催となりました。3年前は、紙芝居方式で児童が一カ所に集中して和やかな中で実施しましたが、今回は各自が密にならないよう広い体育館での開催となり、児童達が間隔をあけて整列する形での少し緊張した趣の中で講座がスタートしました。

前半は、江戸時代中頃の230年前から始まったと伝えられている凧あげの歴史についてです。浜松まつりの期間は、以前は5日間でしたが、近年は3日間に短縮され、御殿屋台は「大八車⇒底抜け屋台⇒御殿屋台」と変化してきたことを児童達に説明しました。浜松まつりの凧や屋台の移り変わりについて児童達は真剣に聞きながらメモを取っていました。

後半は、実物の半帖凧、テギ、凧印（各町内名が入った布）などを児童達のそばに持っていき実際に見て触れて、和やかな雰囲気の中で講座は進行していきました。

最後の質疑応答では、児童から素朴な質問が数多く出ました。質問の一部として、「何で屋台にお雛子が入ったのですか？」「屋台を引く人はどのくらいいますか？」「凧は竹ではなく木では出来ないのですか？」「なぜ凧あげで糸切り合戦をするのですか？」等興味を持った質問に対して、児童に分かりやすく丁寧に説明する事業部員の方々の姿が印象的でした。

今回の講座で、児童達が浜松まつりの凧・屋台の歴史に一つでも興味をもってもらえれば幸いです。大人になっても浜松まつりを地元の大切な伝統行事として末永く引き継いでもらえることを願っています。

10月12日(火)13時20分から14時20分まで、事業部による「ふるさと講座」が、浜松市立東小学校体育館で学年教諭2名と3年生2学級児童58名(男35名、女23名)が参加して開催されました。

講座が始まる前に大村会長より当会は会員約100名で構成され、浜松の観光案内をしていることを説明しました。大村会長自身が東小学校の卒業生でもあり、昭和30年当時の児童数は1,500名程で1学級55名程であったと当時の思い出を語りながら、児童達に今回の講座を聞いて大人になったら浜松まつりの伝統を将来に渡って引継いでいくことをお願いしました。

今回のテーマは、学校側からの希望で「浜松まつりの歴史、凧や屋台の移り変わり、祭りのエピソード・

の歴史、凧や屋台の移り変わり、祭りのエピソード・



「凧」の実物を興味深く見る児童達

西ブロック研修ウォーキング「和地山・住吉地区」

肌寒い曇り空の10月19日(火)、西ブロックの月例会終了後に、ブロック研修ウォーキングが11名の参加で行われました。コースは和地山公園駐車場⇒市営バス本社跡⇒第一高射砲連隊火薬庫跡、赤レンガ門(静岡大学内)⇒奥山線遊歩道・説明板⇒城北小学校⇒浜松藩馬場跡⇒元亀霊神(げんきれいしん)⇒住吉の親子地蔵像⇒東往還標識⇒旧住吉浄水場正門・ポンプ場⇒銭取駅跡・住吉駅跡です。

「元亀霊神」は平成14年(2002年)に復元された新しい建物です。住吉町が開拓村の時代に原因不明の病気や不幸に襲われ住民が恐怖に駆られ、行者から「三方ヶ原の戦いで亡くなった武田方の武士の屍の霊が迷っている」と言われ、大正13年(1924年)春、この地の最初の開拓者・岡野丑太郎氏が供養塔を建て祈願したところ治まったとのことです。昭和5年(1930年)に7坪の祠を建立し「元亀霊神」と命名し多くの町民の拠り所となってきました。昭和33年(1958年)に180坪の土地を町に提供し、公会堂及び公民館として使用しましたが祠は縮小されました。しかし、自治会が平成14年(2002年)に建立協力を立ち上げ、町民の篤志や浄財により同年11月に竣工しました。

今年には武田信玄生誕500年で、三方ヶ原の戦いが注目されている中、犀ヶ崖の宗円堂と同じよう

な目的で造られた「元亀霊神」が約2km離れたところにあることを知り驚きました。

浜松城北工業高校の南にある「旧住吉浄水場」は昭和6年(1931年)に完成し、常光水源地のポンプ室から住吉の着水井から排水池、ポンプ室まで一連の施設が昭和40年代に役目を終えましたが、国登録有形文化財として保存されています。正門、ポンプ場等のアールデコ調の建造物は見ごたえがあります。

路地裏にある浜松の江戸時代から近代への歴史を感じさせる箇所をウォーキングし、歩いて知る楽しさを感じさせる有意義な研修でした。

広報部 春日康治(西ブロック)



武田の武士の霊を祀った元亀霊神

南ブロックミニ研修会「家康の散歩道」

10月27日(水)、ちょっと汗ばむほどの秋晴れの日、金木犀の香りに包まれながら、南ブロックのミニ研修が15名の参加で行われました。予定コースは「家康の散歩道」で、元城町東照宮⇒大手門跡、高札場址、本陣跡を通過して松尾神社⇒金山神社⇒五社諏訪神社⇒秋葉神社⇒普濟寺⇒西来院⇒宗源院でした。

講師の杉本さんはいつも通り絶好調で、話は次々と展開し、参加者からも多くの質問が飛びだし、既に東照宮を見学している時点で時間が押し始めました。

今回のミニ研修で私が興味を持った三点をご紹介します。一つ目は狛犬比較です。松尾神社の本殿前の160歳の狛犬はしっぽが横に流れていて丸々と可愛らしく、金山神社の狛犬は艦砲射撃や空襲で鼻が欠けて哀愁を漂わせていました。五社諏訪神社の青銅製1トンの狛犬の立派さは流石、狛犬だけ見て回ってもいろいろ興味深いです。

二点目は秋葉神社の「隠れクリスタン?の水盤」です。神社拝殿の奥にさりげなく置いてありますが、昭和6年に発行された郷土史誌の論文の中で取り上げられ、キリスト教徒の遺物ではないかと

話題になったそうです。確かに十字を組み合わせたデザインのように見えますが、皆さんはどう思われますか?

三点目はこれも秋葉神社の「おがたま」というご神木です。樹齢300年ほど。天照大神の岩戸隠れの折、天鈿女命(アメノウズメノミコト)が実のついたおがたまの枝を持って踊ったそうで、これが神事の時に鈴を鳴らす由来だとか。

さて、あまりの強行軍に離脱者も出て、宗源院は割愛されました。すべて今まで行ったことのある場所でしたが、知らないこと、分かっていなかったことも多く、復習しながら深めていく有意義な時間となりました。

広報部 松沼素子(南ブロック)



隠れクリスタン?の水盤

会員の交流広場

たかぽんの御朱印巡り

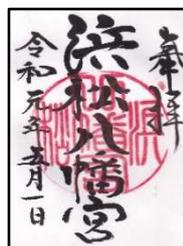
神社仏閣で参拝の証として頂ける御朱印がブームですね。私も旅先での思い出として頂いています。浜松城でも御朱印ガールさんに何度か訪ねられた事がありますので、まずは「家康の散歩道」の城下ルートで頂ける御朱印を紹介します。

元城町東照宮 (元城町)



出世のパワースポット！年に数回だけ(不定期)で(書置き)の御朱印を頂けます。なかなか手に入らない超レアな御朱印としても有名です。引間城の御城印もできると良いですね。

浜松八幡宮 (八幡町)



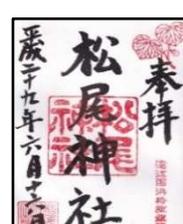
浜松城鬼門除けの神社。来年は三方ヶ原の戦い450年。家康公が身を隠した伝説がある雲立の楠が有名ですね。御朱印帳に直書きして頂けます。令和元年五月一日は令和最初の日付です。

遠江分器稲荷神社 (田町)



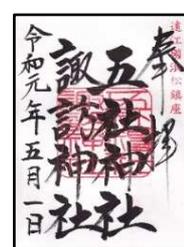
本殿前に書置きがあるのでセルフサービスで頂きましょう。初穂料を賽銭箱へ入れない人には本多忠勝の蜻蛉切りの槍が胸にグサリと突き刺さります。記念の手拭いにも注目！

松尾神社 (元魚町)



和銅年間に創建、浜松城内より現在地に遷座されました。宮司さんが兼務する県居神社の社務所にて御朱印帳に直書きして頂けます。浜松城主の祈願所、城主気分で参拝しましょう。

五社諏訪神社 (利町)



浜松生まれの秀忠公産土神。家光公により社殿が造営され戦前は国宝建造物に指定されていました。2つの神社名を御朱印帳に並んで直書きして頂けます。初詣は浜松一番の賑わいですね。

秋葉神社 (三組町)



浜松城の裏鬼門の位置にある火防の神、井伊の赤備え発祥の地。宮司さんの姿が見えなかったら隣接するお宅を訪ねれば、御朱印帳に直書きして頂けます。並んだ赤い鳥居が撮影スポットです。

【近頃は四季折々カラフルなものが女性に人気】

大歳神社 (天王町)

真田一族が時代の新兵器としていた痕火(煙)火薬(地雷火)が起源だといわれている天王の花火で有名です。昨年2月の御朱印は梅の花でした。



井伊谷宮 (引佐町)

後醍醐天皇の皇子宗良親王が祀られています。今年10月の御朱印は花札をモチーフに鹿と紅葉でした。余談ですが無視する事を(シカト)すると言います。10月の花札の鹿が、そっぽを向いていることから(しかとう)→(シカト)が語源だといわれています。



西ブロック 飯尾 隆

御城印を集めませんか“県西部エリア”

静岡県西部地区観光ボランティアガイド連絡協議会の各地区から御城印の提供がありましたので紹介します。みなさん御城印を集めませんか。



袋井 (久野城)



森町 (天方城)



森町 (飯田城)



掛川 (掛川城)



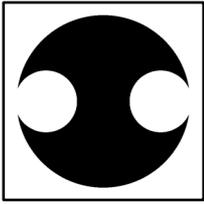
天竜 (二俣城)



浜松城

浜松城主の家紋 パート2

分銅紋 堀尾吉晴(2・3代)



分銅は、秤(はかり)などで物の目方を量る標準とする錘(おもり)。家紋にこの分銅を使った理由は、形の面白さと物を正しくはかる(計・測・量)役割などが考えられます。

丸に分銅と、塩野義(しおのぎ)製薬の社章には分銅が使われていますが、「正確・正直・信頼」の意が込められているとのこと。

堀尾吉晴は、天正18年(1590)～慶長5年(1600)第2代浜松城主。家康の築いた城ですが、小田原攻めで北条氏が滅んだ後、徳川氏は関東へ領地替えとなります。

そのあとに豊臣配下の堀尾吉晴が、遠州浜松12万石を領有します。

この堀尾時代は、石垣や天守などの城の拡充も力を注いだ期間といわれており、堀尾氏による石垣のかなりの部分が現存します。さらに、堀尾吉晴は浜松から出雲に移り、「国宝・松江城」を築きます。浜松城と松江城に、似たところあるかな、と興味深いものがあります。

なお、堀尾吉晴転封後、次男の忠氏が第3代浜松城主として1600年後半まで引き継ぎます。



沢瀉(おもだか)紋 水野重仲(5代)

沢瀉は植物で、水田や池、沢に自生するオモダカ科の多年草。武将がこの紋を好んで用いたのは、沢瀉の別名を勝草とも呼んだことから。水野忠邦は天保の改革で有名ですが、家紋は水野沢瀉(水面に沢瀉)です。沢瀉というと、歌舞伎好きの方ですと、「澤瀉屋」と声がでます。市川猿之助/屋号。

水野重仲は、7歳で家康に仕え信任を得て大番役などを経て、徳川頼宣(家康10男)の御付家老となりました。慶長14年(1609)に頼宣が駿遠两国50万石の領主になると、重仲もこれに従って移り、城持ち家老として浜松城に入ります。大坂の陣のあと加増され3万5千石となりますが、元和5年(1619)には頼宣の紀州移封に伴い、御付家老として紀州新宮城に移りました。浜松城主として、御付家老として、役向きを破綻なく勤めた月日といえるでしょう。

参考文献/「浜松市史二」「浜松城と城主」浜松博物館 「家紋大全」梧桐書院 ほか
研修部 古山貴朗(西ブロック)

10月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

13	水	静岡市立長田西中学校	170名
14	木	浜松市立可美小学校	143名
22	金	浜松中部学園	109名
		富士市立富士第二小学校	107名
26	火	浜松市立積志小学校	137名
27	水	浜松市立中部小学校	103名
28	木	清水町立南小学校	118名
		浜松市立和地小学校	93名
		静岡市立清水庵原中学校	90名
29	金	静岡市立清水不二見小学校	90名
		三島市立徳倉小学校	78名
		* 上記以外に64名未満の29団体	666名

《犀ヶ崖資料館》

1日	金	浜松市立西都台小学校	77名
8日	金	浜松市立伊佐見小学校	32名
12日	火	県余暇プランナー西部ブロック	24名
26日	火	浜松市立浅間小学校	42名
		浜松市立積志小学校	45名

《浜松まつり会館》

13日	水	浜松市立和田小学校	100名
18日	月	藤枝市立高洲南小学校	112名
19日	火	浜松市立和田東小学校	60名
21日	木	三島市立中郷小学校	65名
28日	木	三島市立向山小学校	108名

はままつ案内人会報 232号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)
TEL & FAX 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/



出生大名 家康くん

出生法師 直虎ちゃん

はままつ案内人

検索